

2014年度 子ども議員の活動

子ども議員任命式～7月27日(日曜日)～

子ども議員任命式が、大津市のコラボしが21の大会議室で行われました。

まず、三日月知事から、子ども議員一人ひとりに任命書が手渡されました。子ども議員の皆さんは、初めて出会う人たちばかりで緊張しているようでしたが、知事の笑顔で緊張がほぐれたようでした。

次に知事から、「夢をもちながら子ども議員としての活動を楽しんでください」と激励の言葉を頂きました。

最後に全員で記念撮影をしました。これから、12月下旬の「子ども県議会」に向け、県内各地で体験活動、勉強会を行い、滋賀県に対する「考え」や「思い」を深めていきます。



野洲のおっさんの授業と企画会議の様子～7月31日(木曜日)～

7月31日に企画会議があり、子ども議員の活動が本格的に始まりました。この日は、まず、子どもたちにおなじみの「野洲のおっさん」から滋賀についての授業を受けました。野洲のおっさんはこれまで歩いてびわ湖を4周しています。この体験から滋賀について思うことを子ども議員に伝えてくれました。また、「野洲のおっさんクイズ」を通して滋賀県のことを楽しく学ぶことが出来ました。最後に子ども議員と記念撮影をし、楽しく、有意義な授業を終えました。



午後からは企画会議を行いました。滋賀県がよりよくなるために今、自分が考えていることを一枚のプリントにまとめ、グループ内で発表し合いました。また、その考えを聞いた同じグループの子ども議員からアドバイスをもらい、自分の考えをより深めていく子ども議員の子どもたちでした。

話し合いは、中学生の議員が中心となり、また大人サポーターの助言を受けながら楽しく進められました。また、自分の考えをはっきり発表する様子に子ども議員の意識の高さを感じました。

これから、夏休み期間中に滋賀県内各地に体験活動へ出かけます。今の自分の考えを深めるとともに、さらに視野を広めていくことができるように、スタッフ全員で子ども議員の皆さんをサポートしていきたいと思っています。



体験活動 1の様子～8月6日(水曜日)～

12月の子ども県議会に向け、ふるさと滋賀についてさらによく知るために夏休みを利用して2度の体験学習を行います。この日は1回目の体験学習を近江八幡市・東近江市・愛荘町にて行いました。

まず、午前の初めに東川そさい生産組合(近江八幡市)を訪問しました。組合長から、農家の仕事について説明を聞き、ビニールハウスを見学させていただきました。ビニールハウスで育つ立派なナスに子ども議員一同、びっくり。また、ハウス内の蒸し暑さを身を通して感じ、仕事の大変さの一端を知ることができました。見学後、子ども議員から様々な質問が出ました。特に 県が進める「環境こだわり農産物」について話題があがると、農薬の使用を極力抑え、自然に近い形で栽培し始めてからハウス近くの川に蛍が戻ってきたという話に多くの子ども議員が驚き、環境を守りながら栽培することの素晴らしさを感じていました。



この後、愛東マーガレットステーションへ行き、農家の方がこだわりをもって作られた農作物がどのように売られているのを見学しました。午前の最後は東近江市の滋賀県立平和祈念館を訪問しました。この日、8月6日は広島平和記念日。広島に原爆が投下された日です。そこで、平和祈念館の職員の方から、原爆の恐ろしさ、滋賀県における戦時中の出来事について話を聞きました。滋賀県にもパンプキン爆弾と呼ばれる原爆の模擬爆弾が落とされていたこと、県内各地から多くの方が戦場へ行ったこと、滋賀県にも空襲があったことなどを知り、どこか遠くの意識の中にあった「戦争」をより自分事としてとらえることが出来ました。その後、館内を見学し、子ども議員全員があらためて戦争の恐ろしさと実感するとともに平和の尊さについて考えることができました。



午後からは愛荘町にある近江上布伝統産業会館を訪問し、伝統産業について学びました。滋賀県には彦根仏壇、信楽焼、近江上布と国から指定されている伝統的工芸品が3つあります。近江上布は強靱で耐久性に優れた麻織物であり、滋賀の豊かな自然が生み出した伝統工芸品です。この日は、近江上布について、「麻から繊維を取り出す」、「取り出した繊維を紡いで糸を作る」「糸からミサンガをつくる」といった3つの体験活動を行いました。



麻から繊維を取り出したり、取り出した繊維を一本の糸に紡ぐ体験は想像以上に難しく、子ども議員も大苦戦。しかしスタッフの方にアドバイスをもらいながら粘り強くチャレンジしていました。また、このような過程を経て麻織物ができていることに驚き、先人の知恵に感心していました。後で感想を聞いてみると、「近江上布」という伝統工芸があることを知り、また体験できることができてよかったという意見が多かったです。

農業、平和、伝統産業、多くのことを体験から学び、また滋賀県の魅力を再発見した子ども議員でした。

体験活動 2の様子～8月26日(火曜日)～

この日、2度目の体験活動を行いました。今回の体験活動は、報道の現場を実際に自分たちの目で確かめようと、「びわ湖放送」へ見学に行きました。



まずは、スタジオに入り、「報道番組」ができるまでの過程を、映像を見たり、実際に番組を制作しているスタッフの説明を聞いたりしながら学びました。興味ある内容に子ども議員も話に聞き入り、「1つの番組を作るのに何人くらい関わっているのですか?」「番組を作る費用はどれくらいですか?」など、鋭い質問を次々にスタッフへ投げかけていました。



この後、放送局の心臓部である、主・副調整室を見学させていただきました。子ども議員はたくさんあるスイッチやモニターにびっくり。またそこで真剣に仕事をしているスタッフから報道の現場ならではの緊張感を感じとっていました。特に県内に複数個所設置されているお天気カメラを副調整室で操作できることに驚いていました。また、技術担当スタッフからカメラの操作を教えてもらい、実際にカメラマン体験をさせてもらうなど、貴重な体験をしたひとときでした。



夏休みに行った体験活動はこれで終了。次回からは子ども県議会に向けた勉強会を行います。子ども議員の皆さんが持っている思い、そして今回の体験活動を通して気づいたことを質問や提言にまとめていきます。どんな質問や提言が生まれるのか、今から楽しみです。

勉強会 1の様子～9月7日(日曜日)～

夏休みの体験活動を終え、この日は、子ども県議会にむけて、第1回目の勉強会を行いました。まずは、これまでの経験から考えていることや、夏休みの体験活動を通して学んだことを顧み、滋賀県をよりよくするための提言を考えました。子ども議員からはたくさんの提言が生まれ、それを似た考え同士で分類していくことで、午後からの話し合いグループ(委員会)を決めていきました。



次に「県議会って何？」というテーマで、びわ湖放送解説委員の白髭健次さんの講義を聞き、行政の仕組みについて学びました。講義の中で、県議会の仕組みや役割、県議会委員の選ばれる方などを学び、わからないところは積極的に質問していました。



午後からは委員会ごとに、「環境」「教育」「福祉」「スポーツ」「産業」「農業」「交通」などの分野に分かれ、考えを出し合い、委員会ごとに子ども県議会でどんな提案や提言ができるのかを話し合いました。子どもらしい豊かな発想や柔軟な考えを述べる子ども議員に、聞いている大人サポーターもびっくりしていました。今後も勉強会を通して、質問や提言をまとめながら12月の子ども県議会に向けて、準備を進めていきます。

勉強会 2の様子～9月28日(日曜日)～

子ども県議会にむけて、2回目の勉強会を実施しました。前回、よりよい滋賀県になるための考えを出し合い、似ている考え同士でグループをつくり、委員会を立ち上げました。この日は環境、福祉、教育、びわ湖、スポーツ等様々な委員会を開き、同じ思いを持つ子ども議員同士が集まり、よりよい滋賀県を目指すうえでやるべきことを考えました。自分たちでできることは、子ども県議会で採択する「子ども宣言」に盛り込み、行政や大人の人にやってもらいたいことを提案や提言にまとめることを確認し、前回話し合ったことを思い出しながら、再度、様々な方向から話し合い、考えをまとめていきました。その後、議会での役割(議長、提案、子ども宣言、活動報告等)ごとの分担に分かれて作業を進めました。作業の中で一番難しいのは、自分の思いを文章にすることです。そこで、一度、自分の力で下書きを書いた後、大人サポーターに意見をもらうことにしました。大人サポーターから様々なアドバイスをもらい、自分の思いがよりわかる文章になるよう何度も書き直しながら、粘り強く作業に取り組んでいた子ども議員でした。



最後に仕上がった子ども宣言や活動報告等を全体の場で発表し合い、今日一日の成果を共有しました。次回はリハーサル、そして12月24日が子ども議会本番です。集まる回数はいま少ないですが、着々と準備を進める子ども議員の姿を見ていると、本番がとても楽しみです。



勉強会 3の様子～知事と子ども議員の意見交換会～12月20日(土曜日)

まず、お知らせです。12月24日(水曜日)に予定していた「子ども県議会」ですが、この度、衆議院議員総選挙が行われたことによる議会日程の変更により、平成27年3月25日(水曜日)に実施することになりましたので、ご報告させていただきます。さて、これまで2回の勉強会で、滋賀への提言や自分の考えをまとめた子ども議員でしたが、この日は、まず、三日月知事より、滋賀県についての授業を受けました。



知事が先生になってくださるということで、子ども議員もこの日を楽しみにしていたようです。授業の初めは、「滋賀の日本一をさがそう」というクイズでした。このクイズから、滋賀県にはさまざまな日本一があることを知り、驚いていた子ども議員でした。また、現在策定中の次期「淡海子ども若者プラン」について説明を受けたり、ノーベル賞を受賞したマララさんの話を聞き、あっという間にとっても楽しく、充実した授業が終わりました。授業後、子ども議員に感想を聞くと、「滋賀にはいっぱい日本一があってびっくりしました！滋賀ってすごいなあと思いました。」「滋賀では、環境のこと、人権のこと、子育てのこと、いろいろ行われていることを知り勉強になりました。いい思い出になりました。」などと語る子ども議員でした。



午後からは、「子ども県議会」本番で、自分の思いをしっかりと表現できるようにびわ湖放送の牧田アナウンサーに様々なアドバイスをもらいました。大勢の前で発表するときの心構えや声の出し方など、実演を交えてわかりやすく教えて頂きました。「緊張を受け入れ、自信を持って発表する」…この大切さを牧田アナウンサーから学んだ子ども議員でした。



最後に、子ども県議会のリハーサルを行いました。グループで各自のセリフを確認し、読み合わせをした後、全体で本番通りにリハーサルを行いました。ここでは、みんなが牧田アナウンサーのアドバイスを意識し、堂々と自信をもって発表することができました。本番が今から楽しみです。



「子ども県議会」が開催されました！3月25日(水曜日)

3月25日(水曜日)に「子ども県議会」が、滋賀県議場で行われました。夏の任命式から8か月間、子ども議員として活動してきた子ども議員の皆さんにとって、「晴れの舞台」です。これまで、体験活動や勉強会で滋賀県のことを考え、グループごとに話し合う中で考えた提言を、知事や教育長、各部長に発表しました。

子ども県議会は、子ども議員が議長となり、議事を進めていきました。まず、出席者の紹介の後、来賓としてお忙しい中、来ていただいた赤堀県議会議長、江畑厚生・産業常任委員長から挨拶をいただきました。



次に子ども議員からこれまでにどんな活動をしてきたのか、「活動報告」が行われました。



その後から、22名の議員がそれぞれのグループで考えた提言を、堂々と発表し、その提言に対して、知事や教育長、各部長が答弁をしました。



子ども議員の提案

- 1 滋賀の産業発展のために
- 2 認知症者検索システムについて
- 3 びわ湖の固有種を増やすために
- 4 「ごみ持ち帰り袋」で滋賀をきれいに
- 5 ご当地ステッカーで滋賀をアピール！
- 6 無農薬野菜のよさを味わうイベントの開催
- 7 まちの名所「フラワーロード」の設置について
- 8 放課後の学校や図書館の一部開放について
- 9 日々の暮らしと防災マップ
- 10 授業の中で百人一首とディベートの活用を
- 11 伝統産業を守り、支えるために
- 12 安全に自転車通学をするために
- 13 湖周美化キャンペーンについて
- 14 体の不自由な人が気持ちよく暮らせるように
- 15 子どものスポーツについて
- 16 車を乗せることのできるフェリー

提言を發表した後、子ども議員自らが、これまでの活動を通して、「素晴らしい滋賀県にするために、こんなことを心掛けて生活していこう」と決めた「子ども宣言」を全会一致で採択しました。



「平成**26**年度子ども県議会子ども宣言」 平成27年3月25日

- ①滋賀県のスポーツ人口を増やすために、地域のスポーツ行事に積極的に参加します。
- ②滋賀県の農業をもっと知り、農業を盛んにするため農業体験に参加し、滋賀の食材を積極的に食べます。
- ③一人一人が認め合える滋賀県にするために、相手を思いやり、話し合いで問題を解決します。
- ④学校等で、安全に気をつけて校則を守ります。
- ⑤美しい滋賀県にするために、物を大切に使うとともに、使えなくなった物の再利用も心がけます。
- ⑥びわ湖に優しい生活を心がけ、飲み残したり、水を使い過ぎたりしないよう、心がけます。
- ⑦今よりもっと活発な滋賀にするため、滋賀の素晴らしさをもっと知り、もっと勉強します。
- ⑧美しいびわ湖や滋賀県にするために、ゴミ拾いやボランティアに積極的に参加します。
- ⑨いつでも困っている人に声をかけられるように、挨拶をしたり交流します。
- ⑩自転車に乗る時は、ヘルメットをかぶるなどルールを守り交通安全に気をつけます。

最後に三日月知事から挨拶をいただき、これまでの子ども議員としての活動にねぎらいの言葉を頂くとともに、これからの子ども議員の皆さんに激励の言葉を頂きました。



子ども議員の皆さん、これまで8か月間、滋賀県のことを一生懸命考えてくれて、ありがとうございました。県内各地から、小学校4年生から中学校3年生までの幅広い年齢層の中で、活動を楽しみ、相手の意見をいたわり合いながら、考えを語り合う中で、素晴らしい提言や子ども宣言を考えてくれました。また、この日は質問や提言だけでなく、「子ども県議会」を開催するにあたり、「こうしたらさらに良くなるのでは」など、様々な意見を出し合い、子ども議員全員で作り上げた素晴らしい「子ども県議会」となりました。これからもそれぞれの地域において、今回の経験を生かして活躍してください。

